

# 報告されている子宮頸がん<sup>けい</sup>予防効果と抗体価の持続期間は、 ワクチンによって違いがあります。

詳しくは医師にご相談ください。

## サーバリックス

HPVワクチン

A

( 感染を予防できるウイルス )



子宮頸がんの原因

HPV  
16

HPV  
18

( 免疫サポート成分 )

MPL<sup>\*1</sup>  
免疫調節物質

アルミニウム塩<sup>\*2</sup>

十分な免疫を長期間保つための  
工夫がされています。

\*1 モノホスホリルリピッドA: 抗原に対する免疫応答を増強する物質 \*2 水酸化アルミニウム

## ガーダシル

HPVワクチン

B

( 感染を予防できるウイルス )



子宮頸がんの原因

HPV  
16

HPV  
18

性器のイボ  
(尖圭コンジローマ)の原因

HPV  
6

HPV  
11

( 免疫サポート成分 )

アルミニウム塩<sup>\*3</sup>

\*3 アルミニウムヒドロキシホスフェイト硫酸塩

●HPV: ヒトパピローマウイルス

⚠ 子宮頸がん予防ワクチンは、同じ種類のものを3回接種してください。2、3回目に1回目と異なるワクチンを接種した場合の効果と安全性は確認されていません。

ジャパンワクチン株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

CR1P01000-MD  
作成年月2012年11月

子宮頸がん予防ワクチンの接種をご希望の方へ～ワクチンによる子宮頸がん予防のポイント～

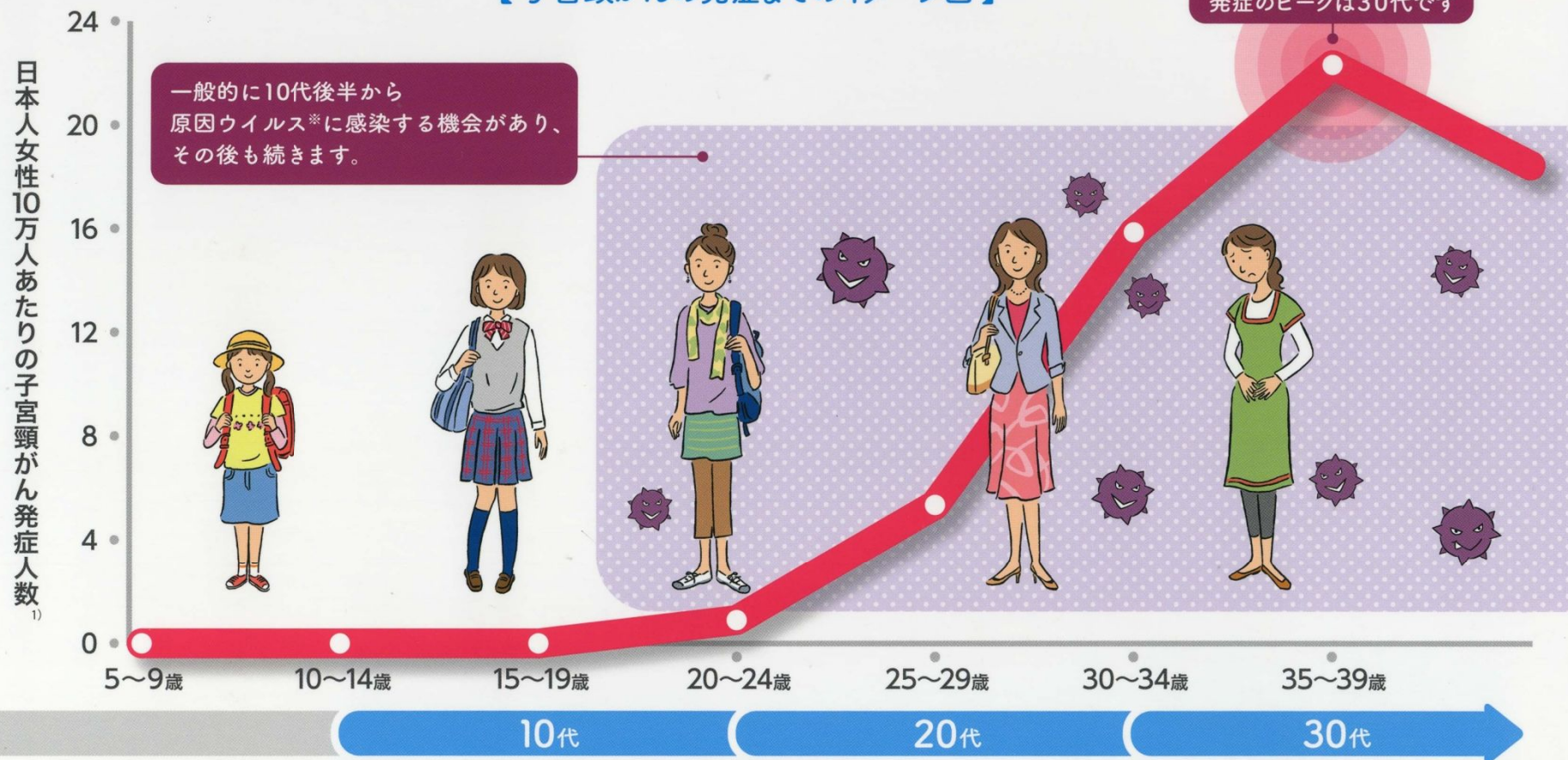
子宮頸がん予防は、ワクチン接種で長期間、ウイルス感染から守ることが大切です。

※【発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)】

性交渉により感染します。感染したら必ずがんになるわけではなく、ほとんどの場合は免疫力で自然に排除されます。



【子宮頸がんの発症までのイメージ図】



▲ 感染から子宮頸がん発症まで、数年から十数年かかります。

1) 国立がん研究センターがん対策情報センター：地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(2001年)